

授業で使える当館所蔵地図

No. 46 『2万5千分の1地形図 津島』

作成年：1924（大正13）年

サイズ：46×58cm

作者：大日本帝國陸地測量部

*この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。
(承認番号 平30情複 第1644号)



【解説】

大日本帝國陸地測量部発行の地形図である。2018年現在、岐阜県南部に位置する海津市、愛知県北西部に位置する愛西市、津島市における当時の地名、土地利用の様子が表されている。岐阜県を中心に見ると、当時は、海西村、吉里村、今尾町、高須町、東江村、西江村、大江村といった町村が海津郡に属していたことがわかる。また、当時の土地利用の実態としては、主に乾田と水田であり、自然堤防上に集落が点在していたことがわかる。

★1 大日本帝國陸地測量部

大日本帝國は、日本国の国号の一つである。主に江戸時代の終わり頃から戦後1946年頃まで、外交文書などに公式に使用されたといわれる。以後は日本もしくは日本国を使用している。

また、陸地測量部は日本陸軍参謀部の外局で、国内外の地理、地形などの測量および管理を行っていた専門機関である。現在の国土地理院の前身である国家機関である。軍事上必要な情報を把握するために散り、地形の測量を行っていた。日本の終戦に伴い、陸軍参謀本部は解体され、業務は内務省地理調査所に移管、その後、国土地理院が引き継いで現在に至っている。

★2 大正

日本の元号の一つ。明治時代（1868年～1912年）の後が大正時代（1912年～1926年）となり、大正天皇の天皇在位期間に当たる。なお、日本史上の時代区分からすれば、最も短い。元号は、明治以降、天皇一代につき一つだけ元号を定めること（一世一元の制）とされた。

国内の主な出来事としては、米騒動（1918年）、関東大震災（1923年）、普通選挙法の成立（1925年）、治安維持法の制定（1925年）などがある。平塚らいてうらを中心とした女性運動や、政党勢力が政界に進出し、大正デモクラシーが盛んとなった時代でもある。

★3 海津

海津郡は、1897（明治 30）年に郡制施行によって、海西郡と下石津郡及び安八郡の一部が合併して成立した行政区である。地図に示した大正 9 年には、城山村、石津村、吉里村、東江村、大江村、西江村、高須町、今尾町が存在したとされる。以後、1954（昭和 29）年～1955（昭和 30）年にかけて、海津郡は、海津町、平田町、南濃町の三町となり、2005（平成 17）年の市町村合併を経て、海津市となった。

【用語について】


・沼田・水田・乾田


現在の地図記号において、田は 1 種類しか存在しないが、前頁に示した地形図には、沼田・水田・乾田 3 種類の地図記号が存在している。


乾田は稲の刈り取りが終わった冬場は乾燥した土地になるのに対して、沼田は稲を刈り取った冬場でもぬかるんでいる田のことを表す。なぜこのような違いを示しているのかといえば、軍隊が通行可能か否かを判断するためである。当時、この地図を作成していた大日本帝國陸地測量部は、陸軍の軍事上必要な情報を測量によって把握していた。

田を沼田、乾田と区分けしていたのは明治時代までとされ、それ以降の大正時代から昭和 30 年ごろまでは、乾田、水田、沼田の三つに分けて示されていた。乾田は兵隊・戦車・大砲が通行可能、水田は兵隊・戦車が通行可能、沼田は全てが通行不可能ということの意味していた。

戦後の日本では、平和主義が尊重されるようになり、先に示したような 3 つの区分は不要となり、田は一種類の地図記号で示されることとなった。

沼田 

水田 

乾田 

【利用の例】

○市の様子の移り変わりを学習することができる。

2017（平成 29）年に告示された小学校学習指導要領では、第 3 学年において「市の様子の移り変わり」が付け加えられた。その際、地形図を時代ごとに並べて、今と昔を比較することによって、地名や土地利用の様子、さらには道路の様子の変化を捉えることが可能になる。

（例 1）地名の変化

1924 年の地形図 海津郡（海西村、吉里村、今尾町、高須町、東江村、西江村、大江村など）

1973 年の地形図 海津町、平田町、南濃町

2014 年の地形図 海津市

（例 2）土地利用の様子の変化

1924 年の地形図 海津の北東は乾田が広がっているのに対して、南西は水田が広がっている。

2009 年の地形図 一面に水田が広がっている点で変わりはない。

集落の位置もほぼ同じであり、昔から代々大切に守っていることが考えられる。

（例 3）交通の様子の変化

1924 年の地形図 幅の狭い道で、途中で切れているものが多い。

2009 年の地形図 田が長方形に区分けされ、その上に道が整備されている。

大きな道路も整備されている。

（例 4）地図記号の変化

1924 年の地形図 沼田、水田、乾田でそれぞれ記号が用いられている。

1973 年の地形図 沼田、水田、乾田が田で統一された記号が用いられている。

【参考文献】

○下中弘『岐阜県の地名』平凡社、1989 年